

## 第一回坂本小学校運営協議会記録

○日 時：令和5年5月26日（金）15時30分より

○場 所：坂本小学校図書館

○内 容

① 会長挨拶

② 委任状交付及び委員自己紹介

③ 中期学校経営方針の説明及び承認

・今年度は4回学校運営協議会を開催する。今年度の目標として、大きく3つ掲げた。「多くの教職員に見守られていると子どもたちが実感できる学校」「地域や保護者、関係諸機関など多くの方々に見守られていると子どもたちが実感できる学校」「業務改善を進め、教職員がいつも笑顔で子どもたちと接することができる学校」である。

④ 児童の様子

・制限が解除され、コロナ前の日常が戻ってきた。グループ活動、調理実習など子ども同士の関わりも増えた。坂スポが秋開催になったことで、児童、職員ともにゆとりをもって学校生活を送ることができていた。

⑤ 年間行事及び「ふれあい教室」について

・ふれあい教室は、7月21日（金）に実施する。450名ほどが参加予定である。子どもたちも楽しみにしている。新規の講座も増えた。ふれあい交流委員会を中心に準備を進めている。

⑥ 議題提案

・地域学校協働活動の成果と課題について

⇒見守り隊などの活動が充実した。学生や多くの方々がふわふわルームなど、学習のサポートを引き受けてくれている。ふわふわルームだけでなく、各クラスでの学習ボランティアができるよう調整していく。来年度に向けて保護者の方々による1年生の給食のボランティアも考えている。今後も多くの方々に子どもたちが見守られていると実感できる学校をめざしていきたい。今年度、そのための土台作りを進めていきたい。

⑦ 意見交換

・「ふれあい教室」や「見守り隊」が充実してきたのは成果である。今後、保護者の方々もお手伝いに参加するようになるには、学校運営協議会とPTAが連携できるように整備していく必要がある。

・「見守り隊」の発足は、保護者、地域の方々のおかげで充実した。学生もたくさん入ってくるようになった。これからはより保護者の方々のお力を学校教育に活かしていかないと子どもたちのよりよい教育は成り立たない。例えば、お花のボランティア。ボランティアの方々によって一年中花が絶えない学校がある。そうした学校環境は子どもたちの安定にもつながった。保護者の方々が栽培委員会の子どもたちなどと一緒に学校環境を整えるのも、子どもたちにとって効果的であると考えます。

・自分のお子さんが通っているので、学校に協力するのは基本であると考えます。しかし共働きなど実際に難しい家庭もあるのが現実である。お手伝いが必要であればPTAから頼むのがよいと思うが、今は、学校・地域コーディネーターの方々窓口となっている。

- ・海外では保護者の参画が盛んである。アメリカでは、ネットでこういうボランティアが必要であると出るなど、保護者が学校ボランティアに参加できるようになっている。今年度から、PTA総会をオンラインにした。PTA用のアドレスも確保した。IT担当もPTA本部に配置した。ボランティア募集もネットできるようになると考える。
- ・保護者や地域の方々が学校活動に参画するにはきっかけが必要である。見守り隊に声をかけたら、それをきっかけに毎日来てくれるようになった方もいる。加わるきっかけづくりも大切である。
- ・昔は、学年学級委員が各クラスにいて、人と人のかかわりのなかでこうした募集ができたが、今はない。クラスの連絡網もない。そういったものをフォローするのもITかと思う。今の保護者の生活スタイルに合わせて進めていくとよい。
- ・見守り隊は人づてや声かけで広がっていった。時代に合わせた進め方も大切だが、人とのつながりも大切にしたい。
- ・保護者のボランティアとしてふんわりの会がある。なかには、子どもの学校の様子を知りたくて「ふんわりの会」に参加して下さっている方もいる。きっかけとシステムを工夫することによって、保護者の方々の賛同を得られると思う。
- ・学校・地域コーディネーターに保護者の方もぜひ加わっていただきたい。地域が学校にかかわるメリットは子どもを見守る目が増えることである。子どもたちにとっても顔なじみになって、かかわりがふえる。あたたかい街づくりにもつながっている。保護者の方のなかには子どもより先に出勤される方もいて、すみませんと見守り隊に声をかけてくれる方もいる。坂本小学校はこれからもずっと続いていくので、そうした保護者の方もできるようになったら、できる人がやっていくことで、これから先もずっと続いていくようになると思う。
- ・学習ボランティアは募集人数が少ないので、学校・地域コーディネーターが窓口になっている。年間でどんな活動があるかを示し、年度初めに募集をかけることができれば、たくさんの方が参加できると思う。
- ・持続できるようにするには広く募集できるやり方を確立していくべきである。2・3年かけてシステムを構築していく必要がある。保護者が、卒業しても、地域の人として、学校とかかわることができるようにしていくことを今のうちに考えていく必要がある。
- ・働いているけど、学校にかかわりたいと思っている人が少なくないのも感じている。保護者の方も学校にかかわると自分の子だけでなく、他の子も見える。これからの子育てのためになるようなこともあるし、保護者同士の関係も深まる。ただ、学校の活動に参加することに壁を感じている方も多い。気軽に参加できるような工夫があればよい。

#### ◇学校運営協議会の予定

【第2回】(9月22日 10時～) ※「ふれあい交流委員会(懇話会)」を兼ねます。

内容：授業参観、次年度の「ふれあい教室」や「ふるさとまつり」について、地域学校協働活動について

【第3回】(12月15日 15時30分～)

内容：授業参観、学校評価について

【第4回】(1月31日 15時30分～) ※「ふれあい交流委員会(懇話会)」を兼ねます。

内容：全職員との交流、今年度の振り返りと次年度に向けて